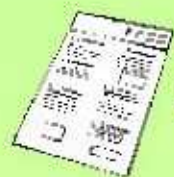




# 入学試験（SPI）について

— 医療分野の学習に欠かせない「総合力」のテスト —





## SPI (Synthetic Personality Inventory) とは

■SPIとは、

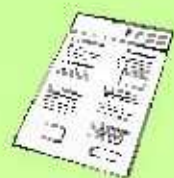
**Synthetic Personality Inventory** (総合的個人情報管理記録) の略です。

■元々は、企業や施設を受験する人の**総合的能力特性や、職務適応性を総合的に把握するために開発された試験**です。

■2008年の時点で、一般企業の50%以上が  
入社試験として採用している、日本国内では  
センター試験の次くらいに有名なテストです。

\*施設への入社試験では、SPI形式で問題が出されることもあります！

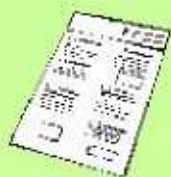




## 「総合力」がなぜ大切なのか？

- 医療系の仕事では、職務の性格上、  
数学・理科・英語・国語・一般常識など、  
幅広い基礎的能力を身につけていることが求められます。
- 医療系の学校で学習を進める上でも、  
将来、セラピストとして現場で働く上でも、  
バランスの良い基礎的学力を身につけておくと、  
学業や実習、就職や実際の仕事でも大変有利です。
- 難しい漢字や高い数学力・英語力などではなく、  
「基本的な知識を上手に使う」  
「筋道だって物事を考えられる」ことが必要です。





## 医療系の現場で「総合力」がないと・・・

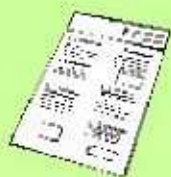
- ☹️ カルテに書かれた英語が分からないよ・・・
- ☹️ 周りみんな英語や略語で通じるのに、自分だけ意味が分からないよ・・・
- ☹️ 症例報告や申し送りを書かないといけないのに、文章が書けないよ・・・
- ☹️ 患者さんの薬の処方を見ても、全然内容が読み取れないよ・・・
- ☹️ 教科書に載ってないような症例が来て、どうしていいか分からない・・・
- ☹️ 「自分で解決策を考えろ」って言われても、考え方なんて知らないよ・・・
- ☹️ 「調べろ」って言われたけど、「調べる」ってどうやるんだ・・・
- ☹️ 患者さんの回復評価を統計的に見たくても、やり方なんて知らないよ・・・

・・・なんてことが実際に起こってしまいます。

新卒のセラピストの多くは、この問題でずいぶん苦労していますよ。

「そんな程度の事は楽勝だ」と豪語していた学生さんの多くが、  
実習では「そんな程度の事」に、相当苦労した模様です。  
灯台下暗し、ですね・・・





## SPIを試験に導入した理由

- SPIは「標準化」「統一化」された試験問題です。
  - いわゆる「難問」「奇問」が一切なく、安心！
  - 国語や数学が専門でない教員が作った「オリジナル試験」だけを課すより、医療系に必要な「総合力」を公正に評価でき、受験生の不安を軽減できます。
  - 市販の問題集1冊で、十分に対策が出来る！
    - 「国語」「数学」「英語」「物理」「化学」など、何冊も参考書を購入して勉強する必要がありません。
  - 入試対策だけでなく、将来の就職試験の予備学習としても、十分に効果があります。





# SPIに出る問題は、医療とこんな関連があります！

## (1) 非言語分野

■ 「算数」や「理科」の基礎的な力がとても大切！

- パーセント計算
- 比の値
- 図表解釈
- 濃度算
- 速度算
- 確率・組合せ
- 集合
- 条件と領域
- 関数
- 運動力学
- フローチャート
- データ分類
- 滑車
- 歯車
- n進法
- 物の流れと比率



実は、基礎的な算数や理科の知識が、医療系では大活躍。  
・・・実際、意外と出来ないものなのです。

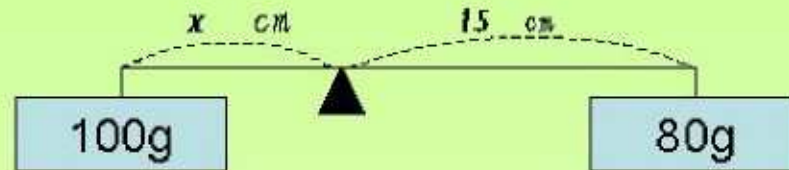
- でもこれらができないと、
- ・人体運動を客観的に理解できない
  - ・患者さんのデータを客観的に分析できない
  - ・治療のプログラムを、論理的に流れに沿って組み立てられない
  - ・効率の良い、リハ室の管理運営が出来ない
  - ・与えられたデータから、必要な情報をすばやく読み取る
  - ・薬や、薬物療法を理解するのに必要な分量などの条件が理解できない
  - ・物理療法に必要な熱量や濃度の理解ができない

などと言った問題で、将来悩んだりする事になります。



# たとえば、運動力学は・・・

例題：下图のてこが釣り合っているとき、 $x$ の値はいくらか。



A=8 B=9 C=10 D=11 E=12 F=A~Eはいずれも正しくない

答え：E

これが、「運動学」という科目ではこんな風に扱われます。

		
片足立位：中殿筋の作用 (第1のテコ)	基本肢位：上腕二頭筋の肘関節屈曲作用 (第3のテコ)	プッシュアップ：上腕三頭筋の肘関節伸張運動 (第1のテコ)
力点→大転子(中殿筋付着部) 支点→股関節 作用点→体重心部(加重点)	支点→肘関節 力点→橈骨粗面(上腕二頭筋付着部) 作用点→前腕重心部	作用点→体幹重心(肩甲骨) 支点→肘関節 力点→肘頭

(国家試験の問題レベルはこれよりも難しい場合もあります)



# SPIに出る問題は、医療とこんな関連があります！

## (2) 言語分野・英語

■「読解力」「文章力」「単語レベルの英語力」は不可欠

### ★国語★

- 複数の意味
- 同意語・反意語
- 漢字・熟語
- 敬語の使用法
- 語句の意味
- 文章整序
- 長文読解
- 行為・用途

### ★英語（高校レベル）★

- 英単語
- 熟語・文法
- 長文読解

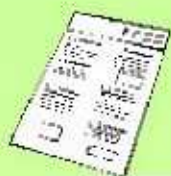


専門書を読む、論文を読む・書く、報告書をまとめる、レポートを書く、対象の方に敬語を正しく使える、要点やポイントを分かりやすく説明する、と言った力には、「国語力」が重要。医学用語も、漢字で書けなければ全くこの業界では通用しません。

また、医療現場では日常的に単語レベルの英語が飛び交っています。医師のカルテも半分以上は英語表記。ただでさえ難解な医学用語が、更に英語で、しかも略語になっていたり・・・

専門書もインターネットも、最新の情報が知りたければ英語で読む力がどうしても必要。

・・・今から少しずつ準備しておかなくて、本当に大丈夫ですか？



## PT・OTのこんな日常が皆さんを待っている

例：某月某日 医師カルテにこんな記述がありました。

### Summary

12月1日、4:00AMにKr.より severe Headacheの訴え、QQ車にて Hp搬送、ER対応。CTにて Lt. MCA area (inner capsula近)に4cm 程度のLDA認める。cons. JCS=300-1 だがrespiratory(+)のため O<sub>2</sub> via Nasal、saline + hepa I.V.投与し monitoring。

48hrs後にcons Lv. 1桁まで回復しFa呼びかけに対しclearにresponse。 Rt.hemisphereのU/E・L/Eともvoluntary movement entirely(-)であるが、 sensory(pain・touch)は多少残存している模様。Acute caseではあるが 早期recoveryを促すため、本日付でPT・OTに対しbedside でapproach をメインにReha orderとした。

・・・これを読んでいたら、看護師に「OTさんとPTさん、これからムンテラ入れますか？」と尋ねられた・・・

※フィクションですが、レベル的には誇張していません。現実はこのまんです





## 将来のため、今から少しずつ総合力を つけていただきたいから・・・

- 医療現場でセラピストに求められる能力は本当に様々。  
そんな「総合力＝頭の基礎体力」を今から少しずつ養う  
ためにも、一度SPIを勉強されてみてはいかがでしょうか？
- 当校のSPI試験は、高校卒業程度レベルに問題を設定し、  
幅広い経歴・学歴の方でも無理なく受けられるように  
専任教員が十分にチェックした上で出題していますので、  
大卒程度を想定した難問などは出ていません。
- どんな問題なのか見てみたい、という方には一般的な  
SPI試験（高校卒業程度）の模擬問題をお渡しして  
おりますので、お気軽にお申し出ください。

